

実践事例集 2 - 1 さんさん山城 (社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会)

地域特産品の栽培・加工・販売、カフェ運営を通じて地域での活躍の場を生み出す

【主導】
福祉事業所

【取組内容】
農業参入

【工夫点】
働きやすい環境づくり

【効果】
地域での活躍の場の創出

■活動主体の概要

- さんさん山城は、京都府京田辺市にて農業、加工、カフェ、縫製、紙細工、及びそれらの販売等を行っている福祉事業所（障害者就労継続支援B型、定員20名、利用登録者数32名）である。
- 同事業所は就労継続支援B型事業として農業に直接参入し、現在は0.8haで32名の障がい者が農業に従事している。

■活動の背景・目的

- 聴覚障がい者の居場所作りを目的とした自主的な活動を経て、平成23年就労継続支援B型事業所を開所。
- 「障がい者が社会の一員として地域で元気に暮らし、仕事や活動を通して地域と繋がる。また地域課題の解決に貢献しながら、地域の人たちに必要とされる存在になる。」辿り着いた答えは、農村文化が残る京田辺市に相応しい農業だった。

■農福連携の取組体制・取組内容

- 聴覚障がい者（ろう者、難聴者）や耳の聞こえる知的障がい、精神障がい、引きこもり、重複障がい者が生産・加工・販売の6次産業化に取り組んでいる。
- 地域特産品である宇治茶、京都えびいも、京都田辺茄子をはじめ、京都産鷹の爪（ノウフク企業連携）等、約30種類の野菜を栽培している。
- 宇治茶（高級抹茶の元となる碾茶）は手摘み収穫し、JA等に出荷。京都えびいももJAに出荷の他、規格外のものは「京都えびいもカレー」や「えびいも豚汁」等ランチで提供。
- 加工にも力を入れており、高級抹茶をふんだんに使用した「濃茶大福」「抹茶クッキー」、粘り気のある食感が特徴の「えびいもコロック」は、地域でも広く知られるヒット商品である。平成30年度の売上高は、約12,000千円となっている。

【農業に従事する様子】



■農福連携の取組の工夫点と効果

【働きやすい環境づくり】

- 生産、加工、販売全ての工程において、障がい者が主体的に作業に取り組めるあり方を常に追求している。
- 聴覚障がい者が多いため、朝礼や作業の指示等、手話、音声日本語、書記日本語（板書）と3言語で情報保障を行っている。
- 障がい種別に関係なく作業チームを編成、共に作業し「集団の力で高め合うこと」を大切にしている。
- カフェのランチは1日1品を日替わりで提供。金額はお釣りの間違いを防ぐためワンコイン。ドリンクもセルフサービス。可能な限り簡素化した営業スタイルを通して障がい者が働きやすい環境整備に努めている。

【地域での活躍の場の創出】

- 地域特産品を栽培することで地元のベテラン農家や行政、JAと繋がる。それらを加工し、模擬店で販売することで市民と繋がる。コミュニティカフェを運営することで子供から高齢者まで幅広い年代の来店客と繋がる。障がい者が農業に取り組むことは、地域と障がい者が繋がることでもあり、誰もが受け手や支え手になれる地域共生社会の構築にも寄与する。
- 地域に根差した取り組みは多くのメディアに取り上げられ、国内外からも多くの視察者が訪れる。このような多方面から注目を集めることは障がい者の就労意欲向上に繋がると同時に、他者から評価を受けることで自尊心を高めることにも良い影響を与えている。

■農福連携に取り組みたい人への応援メッセージ

- さんさん山城は平成23年の開所時、道具も知識も技術も何もない状態からスタートし、何とかここまでやってこれました。さんさん山城でできたのですから、どこの事業所でもやり方によってはできるかと思います。
- もちろん自然相手の農業を障がい者と共に取り組むのはいろいろと大変な面もありますが、逆に農業だからこそ得ることができる喜びややりがい、事業効果も多くあります。ぜひ頑張ってください。

資料）写真はさんさん山城ご提供

14

制作:

農林水産省
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

MUFG 三菱UFJリサーチ&コンサルティング